



クリスマス献金とユニセフハウスへの訪問

報告者 東京都港区愛星保育園 山本 敦子先生

ポイント

本園は、昭和31年11月に認可保育事業を開始しました。

平成4年2月以降は、社会環境の変化に即した「子育ち支援活動」の一層の強化を図るための単独事業体として運営され、家庭と保育園とがそれぞれの役割を十分に認め合い、お互いの理解と信頼の上で保育をすすめています。今回、ユニセフ協会を訪問し、クリスマス献金をしました。



愛星保育園園舎

実践

本園はキリスト教真理に基づき、子ども達に以下のことを実践し、人として豊かな心が育つように取り組んでいます。

○聖話（神様のお話）を3歳児は秋頃から、4・5歳児は毎月一回職員より聞いています。

子ども達が理解しやすいように日々の生活の中にある身近な出来事につなげて話をしてすることで神様の存在を身近に感じ、親しみを深めています。

○クリスマス前にアドベント（待降節）礼拝を行いクリスマスの本当の意味を知る機会を設けています。

アドベント礼拝の中で子ども達に「自分達にも出来る心のプレゼントをしよう」と話をしています。

心のプレゼントが目で見てわかるように、2009年度はお生まれになる赤ちゃんイエス様のための飼い葉おけに自分たちで育てた稻のわらをプレゼントしてイエス様の誕生を楽しみに待ちました。



稻のわらをプレゼント

○クリスマスの時期に保護者の方々に献金を呼び掛けています。

子どもたちにも献金の意味や世界には困っているお友達がいることを伝えると、家庭で手伝いをした際のお小遣いを献金したいと保護者にお願いし進んで献金をする子どもの姿や、毎年4・5歳児がイエス様誕生後に教会訪問（目黒カトリック教会）をした後40分かけて歩いて園に帰ってくことで（5歳児のみ）そのバス代を献金箱に献金しています。この取り組みは約10年前に子ども達の発案から始まり、今でも続いている。

○その後4・5歳児はユニセフハウスへ献金を届けるため、訪問を行っています。

訪問した際には世界の子ども達を知ることが出来るビデオを観させて頂いたり、ユニセフハウスの方より館内の案内もして頂いています。館内見学では実際に水がめを持たせて頂くことでその重さに驚いたり、経口補水塩水の作り方も実践して頂きどんな時に使うのか説明を聞くことで、世界にはお水が簡単に飲めない友達がいることを知る機会となっています。



ユニセフハウスでの献金



ユニセフハウスの見学

成 果

ユニセフハウス訪問をさせて頂くことで、自分達が行ったクリスマス献金が実際にどんなところでどのように使われるのかを目で見て理解するよい機会になっています。実際に見る、聞くことは言葉だけよりも心にとまるので、今後もクリスマス献金とユニセフハウスへの訪問を続けさせて頂きたいと思います。